

## 表彰

## 日本油化学会功績賞

平田芳明氏  
((一財)日本水産油脂協会理事)



日本油化学会規格試験法委員会が油脂試験法の日本における公定法として制定・刊行している「基準油脂分析試験法」の運営と普及に長年ご貢献下さった平田芳明氏が日本油化学会功績賞を受賞することになりましたので平田氏の紹介をさせていただきます。

平田芳明氏は、1951年北海道函館市に隣接する上磯町(現在北斗市)にお生まれになり、港が一番きれいに見える八幡坂の上に建つ函館西高等学校を経て1970年、北海道大学水産学部水産食品学科へ進学されました。ご卒業後は日本食品分析センターに勤務され、卒業論文が冷蔵冷凍保存中の魚肉の脂質変化であったこと、またご自身の希望もあり油脂分析グループに配属されました。1984年油脂分析課長、1997年基礎栄養部長、2003年栄養事業部長などを担当されたのち2011年に退職され、日本水産油脂協会に移られました。ここでは1993年に非常勤で理事、2009年に常務理事、2013年に理事長に就任され、昨年からは理事として活動されています。

日本食品分析センターでは油脂分析部門に入所から退職まで関与されました。国の事業では1989年に発刊された「四訂日本食品標準成分表のフォローアップに関する調査報告Ⅱ-日本食品脂溶性成分表(脂肪酸、コステロール、ビタミンE)」を担当しました。この調査で検討した脂肪酸とコステロールの試験法は、栄養改善法改正に伴い1996年に公布された栄養表示基準制度の分析法に採用されました。脂質抽出については食品試料をKOH-エタノールで直接分解し脂肪酸として取り出す汎用性の高い方法に変更しました。更に2006年に内閣府食品安全委員会の委託事業「食品に含まれるトランス脂肪酸の評価基礎資料調査」を担当され、翌年この調査報告書などを基礎資料としたトランス脂肪酸のファクトシートが公表されました。公表にあたり開催された化学物質専門調査会議に報告者として出席したおりに報道機関の取材を受けるほど関心が高かったそうです。そして以上の知見は、日本油化学会が日本における油脂試験法の公定法として制定・刊行している「基準油脂分析試

験法」に記載されました。

日本水産油脂協会では、マイワシの大豊漁期に1989年から2年間「太平洋系群マイワシの脂質成分調査」を担当されました。そして水産庁が委託するマリノフォーラム21の研究開発事業の「NMR法によるDHA等の新分析技術の開発」では、主に比較データとしてのGC法を担当し、その成果の一部を1997年に日本食品科学工学会で発表されております。基準油脂分析試験法にNMRを用いた試験法が2つ記載されていますが、この事業での研究成果が元になったそうです。

以上のように、油脂分析分野の進歩に貢献されてその知見を基準油脂分析試験法に反映下さった平田氏が、当時の規格試験法委員会での思い出を次のように語ってくださいました。1981年から何れも常設の関東の固体脂専門委員会と関西の油脂安定性専門委員会に所属したときのことです。当時提案される試験法はバリレーションデータの裏付けが乏しく、合同実験の後に不具合が見つかり、議論を重ね試験法の完成度が高まって行ったことが思い出深い活動であった、とのこと。関西の委員会は当時北区扇町にあった大阪市立工業研究所で開かれ、終了後には懇親会が頻繁にあり、場所が淀川に近かったこともあり、天神祭の船渡御が見られるなど粋な計らいがあったそうです。平田氏は、試験法毎に合同実験を実施する委員会が設置される現在の形になってからも、多くの委員会に参加し、自らもメチルエステル化法(水酸化カリウム-メタノール法)の主務として合同実験の実施と論文作成を担当して貢献下さいました。

規格試験法委員会の運営では、2006年に副委員長に就任されて2007年から2010年まで委員長(規格試験法担当理事)となり、その後も2021年度まで副委員長を続けて貢献下さいました。委員長在任時は、国際感覚に優れたメンバーの活躍により基準油脂分析試験法(グリシドール脂肪酸エステル)がアメリカ油化学会の求めに応じて共同の基準試験法Joint AOCS/JOCS法に高めることができました。この実績は本分析法に続くJoint法の開発をAOCSと行うための覚書の締結に繋がり、新

規試験法のISO化など国際化の道を作るさきがけ的な出来事となりました。また、規格試験法委員会の若手委員の指導をはじめ、当委員会が毎年開催している油脂関連の企業の品質管理者や研究者などを対象とした「基準油脂分析試験法セミナー」の運営にも貢献されました。

基準油脂分析試験法の発刊では副委員長、また基準油脂分析試験法増補改訂ワーキンググループ主務副委員長として、これまでの試験法の構成を改め、基準法、推奨法、参考法、鑑別法の4つの区分にするとともに、書式などを新しいものに変更するなど大幅な改訂をした

「2013年度版基準油脂分析試験法」を発刊されました。そして試験法発刊後は、ユーザーから問い合わせのある質問に丁寧にお答えくださり、知見の普及に貢献されています。

以上ご紹介した平田氏の永年に亘るご業績とご貢献により、またその温厚で責任感の強いお人柄を含めて、本学会とオレオサイエンスが大きく発展したことはご存じのとおりです。平田氏のご尽力に深く敬意を払い、日本油化学会功績賞を授与いたします。